

遊びがひろがり、つながるように。 ～みんなの遊び場 プレーパーク～

山口市内で「いちにちプレーパーク」の活動が始まってから3年。
たくさんの大人たちが子どもの遊び場の「いま」そして「これから」に関わっています。

都会と地方ではどちらが外遊びをしているでしょう？千葉大の調査によると、実はどちらもほぼ同じくらい。小学生の8割が平日にまったく外遊びをしていないという結果も。自然豊かな山口だから子どもたちは外で遊んでいるのかといえ、そうでもないようです。夕方までの授業、塾や習い事、近くに友だちがない、ゲームや動画の普及など理由はさまざま。この数年は自粛期間やイベントの中止などで気持ちもインドアになりがち。状況は都会も地方も大きく変わりません。

子どもが小さいとき、無理なく行けて、子どものやりたいことにゆっくり付き合える、そんな場所があったらいいなと思っていました。1対1での外遊びがしんどいとき、そこに気軽に話せる大人がいたらもっといいなと。

プレーパークは子どもの「やってみたい」を育てるところ。禁止事項をなくして、子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ空間です。全国的に広がつつあり、山口市内では月1回、「いちにちプレーパーク」として市内の公園や神社の境内などで開催しています。子どもたちが思い切り遊べるように、大人は

「あぶない！よれる！はやく！なかよく！順番守って！」の言葉をグッと飲み込んで、寄り添いながら見守りたいものです。

プレーパークにはプレーリーダーが必ずいて、遊び場全体を見守ります。子どもが生き生きと遊べるように環境を整える専門スタッフです。お父さんやお母さん、子育てを終えた人、現役の保育士など立場はさまざま。ボランティアとして、教育や福祉の勉強をしている大学生、外遊びの得意な会社員など、いろんな大人が参加しています。参加者からは「子どものためと思って始めたけど、やってみると自分たちが楽しんでいます」という声をよく聞きます。

あるプレーリーダーは東北の被災地で子どもの遊び場ボランティアに参加し、外遊びで子どもの精神状態が整うことを強く実感したそうです。また、仮設住宅での移動プレーパークには子どもからお年寄りまで集まり、人とのつながりや関わり合い、存在が尊重される場所の大切さを感じたそうです。「将来はプレーパークが三世代交流の場になればいいな」と言われていました。



指絵の具は、手も足もつかって。



段ボールは格好の基地



「いちにちプレーパーク」の手作りの遊具や自然の素材は派手ではないけれど、ゆっくり遊びながら季節を感じられることが魅力です。椿油の抽出や完璧な泥だんご作り。たき火で初めて間近に火を見た子ども。指絵の具のぬちゃぬちゃした触感。竹の、硬いけどナイフでスーッと切れる気持ちよさ。そこで感じるもの、人とのつながり、流れる時間は、忙しい今の子どもたちにとって、ある意味とてもぜいたくなのかも。

「明日は今日の続きをしようかな」「段ボールがあったから基地を作ってみよう」大人が環境を整えれば、子どもの遊びは途切れずに広がっていきます。子どもの「やってみたら楽しかった」という思いを消さないよう、何度でも行きたくなる場所であってほしいと思います。(ナガタ)



～プレーパークを山口に～ プレーリーダー養成講座

10月15日(土)10:00～17:30 山口県旧県会議事堂
16日(日)10:00～17:00 糸米川砂防園

「なぜ遊ぶことは大切なのか」

最近はいたずらできる子どもが少ない。いたずらして、やらかすことで、ここまでやったらだめだった、という境目を知る経験になる。それを知らないままおとなになると…。考えられないニュースを目にするのは、このあたりに原因がありそう。という話題からはじまりました。

「遊ぶ」は自分で自分を育てていくための子どもの本能。「やりたい」から、すべてのことがはじまっていくと、お話されました。

「冒険遊び場とプレーリーダー」

1930年代、デンマークでうまれたプレーパークの理

講師 嶋村仁志さん

TOKYO PLAY 代表。イギリスの大学でプレイワークについて学び、1996年よりプレーリーダーとして活動。現在は、国内外で冒険遊び場の立ち上げ支援に関わる。

念は、「廃材遊び場」としてイギリスに伝わり、その後、「冒険遊び場」という形で、日本では1975年に取り組みが始まりました。プレーリーダーとして遊び場で子どもと向き合うとき、おとなは遊ぶことに寄りそうことが大切。それは、その遊びを面白がって、成り行きにつきあい、頼まれたときだけ手を貸す、という距離感。ですが、これがとても難しい。受け身に徹するプレーリーダーの葛藤のようなものを、少し想像することができました。

「危険について考える」

事故があったから撤去。問題がおきそうだから禁止。どうしても、そんな制限が増えていきます。小さなケガは育ちに必要である、という認識がひろまればどうでしょう。むしろ、危険にふれていないことが

危険である、ということもできます。リスクへの挑戦と、ハザードとの違い。本当にだめなものはだめ、というプレーリーダーの瞬発的な判断力も問われます。



2日目は屋外へ出て、実技研修



中高生グループ

中高生が自分たちで企画します。集まれば、議題よりも雑談がだいぶ多め。学校も学年もちがう友だちとの雑談が、きっと良い気分転換。コロナ禍で、活動の内容は少し変えて、気持ちは変わらず試行錯誤して楽しくやっています！

とまらない！

マンガパーティ

7月24日(日)

仁保 自然道場ふれあい広場

持ち寄ったマンガの山に、始まる前からワクワク。アイスブレイクで打ち解けたら、今日のプランはほぼ自由！犬鳴の滝で水遊びしても、寝転んでマンガを全巻読破しても自由。午後からはドッジボールや水鉄砲、長縄でも遊びました。中高生が声掛けし、一緒に遊んでくれるので初参加の小学生もすっかり仲間に。

見よ！このマンガの山！
いいなーと思うのは、
昔子どもだったおとなも同じ



それでも、やっぱり、外遊びー

子どもたちの体験と活躍がすてき！



明るいうちの下見も入念に。中高生がお化け役！

気持ち明るめ 肝だめし

8月21日(日) 春日山周回

怖がりの多い中高生だけど、肝だめしは夏の恒例。怖い話で雰囲気高めると、2人組の小学生から出発。夜になるにつれ、みんなのテンションも上がります。隠れておどかさそうが怖いんですね。回り終えた小学生「あー、楽しかった!」とお化け役、まだまだ修行ですね。

2022 5月
～10月

こんな舞台をみてきたよ

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。

※印はAFF2助成事業



ピアノカの魔術師

(低・高学年対象)

サウンドポケット ※

5月28日(土)山口市民会館大ホール

3年前の感動をもう一度。ほんとに、あのピアノカ?と驚きの演奏はいわずもがな、ミッチュリーのメッセージに感動した人も多かったよう。

●3才の娘がジャズをきいてうっとりし、タンゴのカスタネットでフラメンコのように指を動かしたり、全身でビョンビョンはねたりしていました。これが“平和”だと感じました。(会員30代)
●せかいいち、すごかった!!(会員小1)



にんぎょひめ to R mansion

6月18日(土) (高学年対象)

山口情報芸術センター スタジオA

まっくらな中にうかびあがるにんぎょひめ。子どもからおとなまで、それぞれに感じるものがあつた舞台だったのでは。

●照明で本当ににんぎょが泳いでいるようでキレイでした!子どもたち5才・3才も、もっとみたい!とみとれてました。(30代)



11ぴきのねこ

(低学年対象)

人形劇団 クラルテ ※

9月17日(土)山口県教育会館ホール

ないがあつても、みんながいるから大丈夫。絵本の世界そのままに、元気でやんちゃなねこたちと一緒に冒険しました。

●11ぴきのねこのみなさん、ありがとうございました!!(8才)
●いろんな仕掛けがあり、おお～!なるほど、おもしろい～!!とわくわくしながら見ました。音楽や歌がワリワリと楽しい気持ちになりました。(一般40代)

あちこち de アート

(低学年対象)

へんてこげきじょう

人形劇団 京芸

8月26日(金) 山口市民会館小ホール

楽しい3人組のゆかいな人形劇3本立て。『へろへろおじさん』では、客席の子どもたちが「おじさん!おじさん!」と必死で応援。

●はいしゃさんがおもしろかった(会員5才)
●娘のために来ましたが、わたしが涙が出るほど笑わせていただきました。



不思議ってステキ!

OH オフィス

8月27日(土)・28日(日)

各地域交流センター他

繰り出されるマジックに、ワッと驚いて、クスクスワハハと笑って、どうなったの?と疑問に思っ。事前企画で「マジック教室」も楽しみました。こんな不思議はだまされたって、大歓迎!

●これほどすごいマジックははじめてでした。(会員小2)
●はとはどこにいったのか、ふしぎ(一般4才)



のはなげきじょう

6月4日(土) 人形劇団のはな

ほのぼの笑顔になる人形劇のあとは、工作タイム。スペシャルな時間でした。

●子どもがずっと楽しそうにしていいてそれを見て嬉しかったです。お土産のカエルに感激しました。(会員40代)
●アットホームな雰囲気です。本物に触れることができて楽しかったです。(会員30代)



子どもたちもインドネシア楽器を体験。



影絵音楽団くぶくぶ おひざでだっこがたんごとん がたんごとん

7月23日(土) 想造舎

ガムランの音色と、美しく響く歌声、異国情緒の中でなじみあるお話に子どもたちは興味深々。

●とても細やかな影絵に娘も小さな声で「ワァ」と言っていました。(一般40代)
●なじみのある絵本と聞きなれないけどやさしい音色の組み合わせが面白かったです。(一般30代)